



「新鋭種雄牛」

神戸で鮮烈にデビュー

＝(社)全国和牛登録協会福島県支部＝

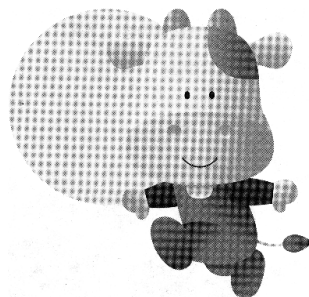
１．(社)全国和牛登録協会主催による平成16年度で6回目となる現場後代検定合同調査会は、平成17年2月7・8日の両日、神戸市中央卸売市場西部市場を会場として開催されました。本調査会は、全国の現場後代検定種雄牛の調査牛を研究牛として1ヶ所に集めることにより、展示効果を高めるとともに若い種雄牛の発掘を目的として開催されるものです。併せて、枝肉6形質の他に、和牛の産肉能力の特性である「うまみ」に関する調査も光ファイバ測定により検討されます。今回は11道県が保有する新鋭の種雄牛15頭の産子53頭が研究牛として出品されました。

２．福島県は今回が初参加で、2頭の種雄牛の産子(雌)7頭で臨みましたが、枝肉成績等は種々の要素でトップの成果を示し、全国の参観者から熱い視線が注がれるとともに、主催者の講評でも絶賛されたところで。供用された新鋭種雄牛は、福島県畜産試験場が有し、待機種雄牛として現場後代検定中の「福寿幸」(第6金高×東平茂×第11村田)と「日本桜」(北国7の8×糸清水×高栄)で、AB4・5率100%、A5は72%という成績は全出品群でトップでありました。「福寿幸」は、長年にわたる福島県の改良方針に基づき育んできた血統から作出された所産であり、枝肉平均重量466.3kgは、2頭以上出品された雌牛群ではトップ、さらに、BMSNo.・ロース芯面積・バラ厚も平均値を大

きく上回るなど、質量兼備の「福島牛」の本領を遺憾なく発揮しました。

一方、「日本桜」は本県の基幹種雄牛「糸清水」を祖父とする系系の種雄牛ですが、出品された3頭のBMSNo.は平均8.3、枝肉の平均キロ単価は2,430円となり、出品された牛の各グループのなかで最高値となりました。

３．主催者の講評のなかでも、特に福島県出品牛については、生体の所感並びに枝肉形質について斉一性やつくりが良好等高い評価を頂き、神戸の地から期待の「新鋭種雄牛」の誕生を、全国に向けて強烈に発信したところです。



・枝肉結果(平均値)

	頭数	月 齢	枝肉重量	芯面積	バラ厚	皮下厚	歩 留	BMSNo.	4・5 率
福寿幸	4	30.4	466.3	65.3	8.1	3.3	74.5	7.8	100%
日本桜	3	30.2	408.4	53.7	8.0	4.1	72.9	8.3	100%
雌全体	26	28.8	406.7	52.8	7.5	3.2	73.3	6.9	84.6%
全 体	53	28.5	432.2	53.5	7.5	3.1	73.2	6.5	75.5%

ふくとしゆき

福寿幸



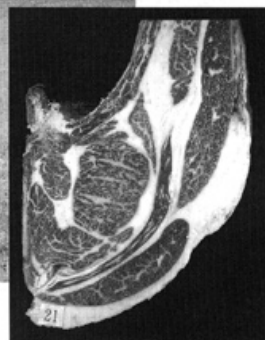
【福寿幸のプロフィール】

平成12年2月6日生れ（5才）

生産者：安達郡白沢村 大内 武幸氏

血統：第6金高×東平茂×第11村田

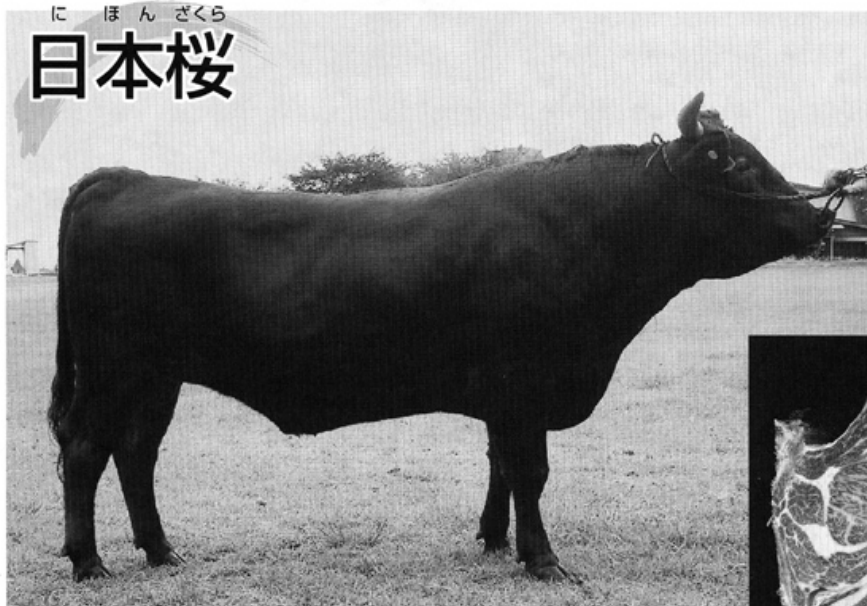
所有者：福島県畜産試験場



合同調査会 No21号A—5（8）

にほんざくら

日本桜



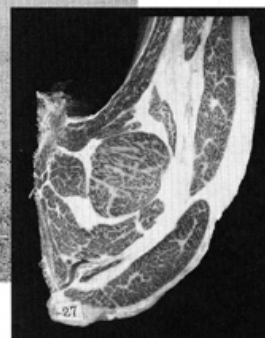
【日本桜のプロフィール】

平成11年11月21日生れ（7才）

生産者：双葉郡浪江町 中谷 久弥氏

血統：北国7の8×糸清水×高 栄

所有者：福島県畜産試験場



合同調査会 No27号A—5（10）